

内水面漁協の活性化に関する研究—那珂川流域における川魚の買い取り販売の事例について— (令和5年度)

吉田豊・村井涼佑

要 約

那珂川流域の川魚店 12 軒における遊漁者等からの漁獲物の買い取り及び販売の状況を調査した結果、8 軒で買い取りを行っていることが確認された。取扱魚種はアユをはじめウグイやモクズガニなど合計 7 種で、これらの合計重量は 2,328kg、総額は 743 万円と推定された。また、これら年間の販売総額は 1,553 万円となり、店主が漁獲したのものも含めると、川魚店が那珂川流域の漁獲魚について 1,883 万円の価値を生み出しているの見積もられた。素焼きなどの加工や小ロットでの販売が行われているカジカでは買い取り額の 4.6 倍の価格で販売されていた一方で、アユについては塩焼きなど加工される割合が高いにもかかわらず、養殖魚と競合するなどにより同 2.1 倍にとどまった。川魚店の多くからバブル経済の崩壊や、福島第一原子力発電所の事故等により天然魚の需要が大幅に減ったとの意見がある一方で、販売方法の工夫により販売を伸ばせるとの意見も聞かれた。川魚店において今後漁獲魚の買い取り及び販売を増やし、収益を拡大するためには、新たな販売方法への取り組みとともに、地域が那珂川の魅力を消費者に知ってもらう取り組みを推進し、那珂川のブランド力の向上につなげていく必要がある。

なお、本研究は（一財）東京水産振興会および（国研）水産研究・教育機構水産技術研究所「内水面漁協の活性化に関する研究 研究成果報告書」の一環として実施した。詳細は（一財）東京水産振興会のホームページ（下記 URL）に掲載した。

https://naisuimen.suisan-shinkou.or.jp/pdf/report_2303.pdf

（指導環境室）